



野州本寺専修寺の境内

高田 本山 だより

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 33,000部

野州の郷愁

法嗣 常磐井慈祥

不思議なもので、本寺のある野州一帯を訪れると、言いようもないような郷愁に襲われることが多い。御開山聖人や真仏・顕智両上人に親近したような安堵感に包まれ、いつまでもここに留まっていたいとの衝動に駆られる髪を引かれるような思いで帰途に着くのである。これは、長年の間に高田門徒の血に刻み込まれたものかもしれない。この高田の地で御開山聖人に随順した真仏・顕智両上人がどれ程真摯に道を求めていたか、思いを巡らすだけで自然に頭が下がり、お念仏せずにはいられなくなる。こんな贅沢な快感を味わえるのは私共高田派に属する者だけの特権であろう。

今春、両上人の大恩会を二年後に控え、幸先よく両上人の坐像が国の重要文化財に指定された。両上人の坐像は、長年本寺の御影堂に安置され、大切に伝持されてきたもので、今回国の御墨付きを頂いたことになり、大変喜ばしいことである。特に顕智上人坐像は肖像彫刻として秀逸であるだけでなく、高田門

徒の信念の込められた尊像である。さらに、真仏上人書写のお聖教で未指定のものも一括して重文に指定しようとの動きがあると伝え聞いている。計らずも、外部から大恩会を盛り上げて頂くような展開になって来た。

内部でも本寺三谷草庵修理落慶、成就院説教所なごみ庵開所、関東別院横浜出張所乗願寺の新築開設と立て続けに整備拡充が進められた。大恩会は勿論のこと、御遠忌も関東での盛り上がりなくしては成功はあり得ない。元関東教団である高田派の浮沈は、今後もいかに関東においてその存在価値を高めるにかかっていよう。関東は御開山聖人が精魂込めて布教に尽力された地域である。その関東で高田のお念仏が盛んになることは、何よりも御開山御自身がお望みになっていらっしゃることに違いない。御開山聖人の願いと高田の願いと相通じているのである。それは高田が終始一貫して最も御開山に近いところにあったからに他なるまい。



「賜春館」の名は本当に 明治天皇の行幸にちなむか

平松 令三

御対面所の西の廊下を奥へ進んだところに、「行在所」と大書した木札を揚げた御殿があります。お部屋の中には「賜春館」という額が懸かっています。ここは明治天皇がおいでになって一泊なさった御殿

ですが、七月の暑い夏だったのに、天皇は「ここは春みたいだな」とおっしゃったので、賜春館と言う名前にした、と言いはれられてきました。たしかに明治十三年七月九日、天皇はここへ行幸されました。

の御殿が貴賓接待用として建てられ、その最初の貴賓が明治天皇だったので、誰かがこんな話を創作したのでしょうか。この御殿は六室からなりませんが、間仕切りの襖をとりはずすと七十畳の大広間になる純和風の素晴らしい建築です。注目されるのは、そこに段差がないことです。江戸時代でしたら、上の間は一段高く上段の間にするのが通例でした。その例は今の御対面所に見られます。それを全室同じレベルとしているのです。これは封建時代が終わって四民平等の世の中になった時期の御殿であることを示しています。

いま御法主様の門徒への御対顔が御対面所ではなく、この賜春館で行われているのもそのためか、と私は理解しています。

(宝物館主幹)



しかし「賜春館」という額も随行してきた太政大臣三条実美の署名と、「明治戊寅夏日」との年記があります。明治十一年のことですから、天皇行幸より二年も前に当たります。既にそのころ賜春館の名がつけられていたことを示しています。こ

ひとくち法話

本山では毎月『ひとくち法話』を発行しています。

御影堂や納骨堂、進納所、宗務院、高田青少年会館など、本山にお参りいただいた方が立ち寄られる場所に、自由にお取りいただけるように置かれています。

また、本寺専修寺や京都、名古屋、神戸、北海道、福井、関東の各別院にもごさいます。

ご参詣の記念に是非お持ち帰りください。



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

五月二十日 専修寺関東別院横浜出張所 乗願寺落成慶讃法会

近い将来
横浜出張所
は専修寺横
浜別院に昇
格致す予定
であります。

前日よりの雨もすっきり上がり、五月晴れの中、専修寺関東別院 横浜出張所乗願寺の本堂客殿浄華墓が落成いたし、五月二十日(土) 法主殿・法嗣殿の御下向を仰ぎ、満堂の中で慶讃法会が厳修されました。

今後は関東別院とともに都市開教の拠点とし、布教活動を展開致したく存じます。
お近くへお越しの折は、是非御参詣下さいますようお願い申し上げます。ここに乗願寺のあゆみを記します。



乗願寺のあゆみ

慶長二年(一五九七)三月七日、武田玄了が起立した寺院である。武田玄了は甲斐の武田勝頼の舎弟で武田宋女正玄了と称したが、京都の本願寺第十二世大僧正准如上人に帰依し、釋玄了法師と号して、久良岐郡松本村に一字を建立したのが、当寺の発祥だといわれている。当初は西本願寺に帰属し、その後高田派に附属した。

明治五年(一八七二)に新築した堂宇は本堂兼庫裡で間口七間半、奥行四間半、屋根は草葺きであった、関東大震災にも被害は僅少であったが、建物が風雪に耐えかね老朽化したので、昭和四十四年(一九六九)四月、本堂兼庫裡の間口七間半、奥行六間半、本堂の屋根は瓦葺きで新築した。

しかしこの百年の間、神奈川の組長であった横浜甚行寺、笹下成就院の歴代住職が代務住職を勤め、武田昇氏、武田家御一同が幾多の苦難を乗り越え護持してきました。

平成十二年(二〇〇〇)十月三日、高田本山専修寺、専

修寺関東別院の役員会の承認を得て、乗願寺を高田本山専修寺関東別院横浜出張所「高田山 乗願寺」と称し、高田本山直轄の寺院に昇格する。

平成十四年(二〇〇二)四月、境内墓地造営を企て、同年十月、許可を所得し、桜の里「日野墓苑」を開園する。平成十六年(二〇〇四)春、三友技術株式会社設計、株式会社間組土木、株式会社小島建設施行により、鉄筋コンクリート造り三階建、総建坪三百坪の本堂、客殿、浄華墓の建設が始まり、平成十七年(二〇〇五)十二月に落成致しました。

また本堂内陣、浄華墓の荘厳、仏具一式は株式会社鍵屋及び本山前西尾仏具店によるものであります。

尚、今般高田本山専修寺関東別院横浜出張所乗願寺の建立にあたり、本山専修寺、東京神奈川組内御住職、武田昇氏、武田家御一同、赤前正成氏の多大なる御尽力に感謝申し上げます。

平成十八年五月落成吉祥之日

関東別院輪番
横浜出張所乗願寺
山中俊之

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせご注文は



人気商品 高田本山流 精進料理

※ご自宅までマイクロ(スで)送品(5名より14名様まで)

高田青少年会館 TEL.059-232-6079

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鍍金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL.059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭
安川如風

御本山絵所
ごほんざんえどころ
にょふう

リレー法話

ご恩 みなご恩

武田 公之

ご恩思えば
みなご恩
この才市も
ご恩でできました
なむあみだぶつ
なむあみだぶつ

浅原才市妙好人

今年一月本山の御正忌報恩講にお参りさせていただきました。いずれはと思いつつ、

ようやく実現した坊守と二人での参詣、本堂にて大勢のご同行の中に交じってお念仏を称え、松山智光先生のご法話を聴聞、その後知人との再会を喜び、賑わいの寺内町をゆっくりと見物することができ、穏やかで快晴に恵まれたこの日は、私の脳裏に深く刻み込まれたお参りとなりました。

本山へは、住職に就いた後、法会に合わせて数回（如来堂落慶、伝灯奉告、降誕会等）来山しましたが、すべてお同行を誘ってのバス行程でありましたので、諸々の世話が主となり、時間に追われること

が多々ありました。しかしながらお同行とのお参りは計算のできない特別な味わいを生じさせてくれます。ともかくも個人であれ団体であれ、多くの法縁をとおして上山できた喜び、宗教（真宗）と自身との関わり、お念仏を共有し給える本山参詣はしみじみと身近に感知されることであります。

私共にとって、報恩講にかぎらず仏事＝聴聞とのご縁に出会わせていただくことは、誠にありがたいことです。今ここに偶然にも一人間としての命がありますが、この命は縁起の法により存在（生かさ

れている）していると釈尊によって説かれ、親鸞聖人はその縁起の道理として如来大悲の誓願であるご本願を他力としていただかれました。ここに有る命より先に不可思議の無量なるご縁（ご恩）によって私をなりましたらしめてあるおいわれ（ご本願）について、聴聞を重ねていくことにより自然

の報恩謝徳、お念仏をいただくこととなりましょう。

才市さんは、命そのものを、人生その道をご恩によって私になつてくださったと即ち、縁起のままに生かさせてもらっている絶対他力を信心されました。それに比べて、あまりにも分別の世界に執着してしまふ私などは全く低いレベルと言わざるをえません。あの先生が「合掌している時の心や処と、それから離れた時の心模様を日頃から内省することが大切です。」と話されたことがありますが、思えば心痛の連続であります。そんな我欲の日常において先にも述べましたように、私たちにかげられた願い阿弥陀如来のご本願をよくよく聴聞（聞法）を営み、命のふるさとはお浄土へ、心のふるさとはご本山ご本寺へと想いつつこの人生を営んでまいりたいものです。

昨年のご事でしたが、しばらく疎遠になっていたご門徒さんの家で不幸がありました。お参りを続けていく中でこの家の奥様は三重県松阪市の出身と知りました。その奥様は、松阪へ帰郷するたびに本山へ赴き、幼少の頃に祖父母とお参りした懐古の情や心の平安を求めてお参りしていたそう

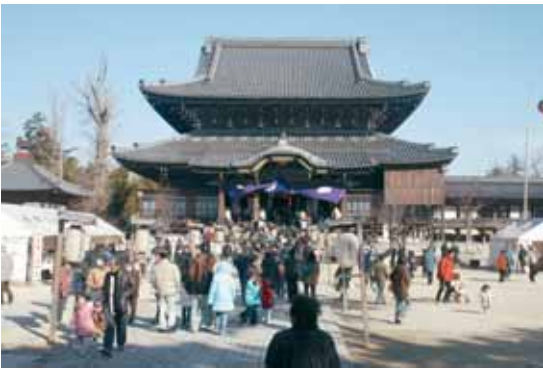
です。当地方に嫁いで四十年近くになるようですが、近隣にそのような御婦人がおられたことに驚嘆し、「御本山への団参がありましたら、ぜひ誘ってください」と申されて、大変ありがたい嬉しく思っています。この御婦人との出会いも、お互いがお互いのご縁となり、また無数のご縁（ご恩）との関連性をいただきながら、一瞬一瞬を共に生かされています（お念仏）との思いのみであります。

生かさるる

よろこびにほう 春の梅

中村久子作

福島県南相馬市 泰澄寺住職



仏壇・仏具
ぬし与
ホーオーが目印/
六代目 **(株)ぬし与仏壇店**
桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

達御用 御推薦
山本 御用
田重 御用
高重 御用
高級御影石専門店
御影石材(株)
（石に御用の方は）
0120-142540
本店 津市広明町（影影寺門前）
☎059-224-1700(代)

ご和讃のお話

村上 英俊

本師道綽禪師は

聖道万行さしおきて

唯有浄土一門を

通入すべき道と説く

(道綽禪師第一首)



数年前のある昼下がりに、風呂敷包みを抱えたおじいさんが納骨堂にお参りにこられました。

「ちよつとお参りさせてもらいます。」

おじいさんは仏間で手を合わせられると、納骨壇へと歩いてゆかれました。しばらくすると音木(拍子木)を打ちながら、朗々と阿弥陀経をつとめる声が聞こえてきました。

一般の方が、音木を打ちながらおつとめしている姿を見るのは初めてでしたので、さっそく帰り際のおじいさんを追いかけて、話を伺うことにしました。

「そんなこと聞かんといて」

今は三部経を練習しています。」

「はじめのうちは恥ずかしい話、家内のためにと思つて「ええとこ往けよ、ええとこ往けよ」という心でつとめておりました。そやけどなあご院さん、半年前くらい前から、こうやってつとめているうちに、だんだん私の心が変わってきました。」

「ご院さん、最近になってやつとわかりましたわ。念仏はなにも、亡くなった者のためだけにあるのではないのですなあ。この私のためにあるというところが、よくわかってきましたのや」

このような内輪のことを話されるおじいさんは、本当につらかったのでしょうか。本気で阿弥陀様に飛び込んでいかれたのでしょうか。

道綽禪師は、この世でさと

りを開くという聖道門の修行を永らく究められました。しかし修行すればするほどはつきりとしてくるのは、いくら修行しても聖者になり切れない自分の姿でした。行き詰ま

られた禪師は、石壁の玄中寺で曇鸞大師の碑文を読まれた際、

中国で最もすぐれた僧と尊崇されている曇鸞大師でさえ、

自力の聖道門では救われぬとすでにお示しになられていたことを知られ、自力で救われると思ひ込んでいた自身のうぬぼれ心を猛反省されました。禪師四十八歳の時だったといわれています。

禪師は、ここで初めてお浄土からの呼び声に出遇われました。真に救われてゆく道はお浄土の道ただ一つと見抜かれたのでした。

すべては、自分の努力次第で解決できると思つていたが、実はそうではなかった。こんな恥ずかしい私でありますとうぬぼれている自分が見えてはじめて、お浄土からの呼び声が聞こえてくるのです。行き詰つて裸になって初めて、そこから開かれてくる新たな世界を知るのです。

聖人はこのご和讃で、私たちがお浄土に往生させていたくださった一つの道は、そこに開かれていることをお示しになられています。

(津市 潮音寺衆徒)

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

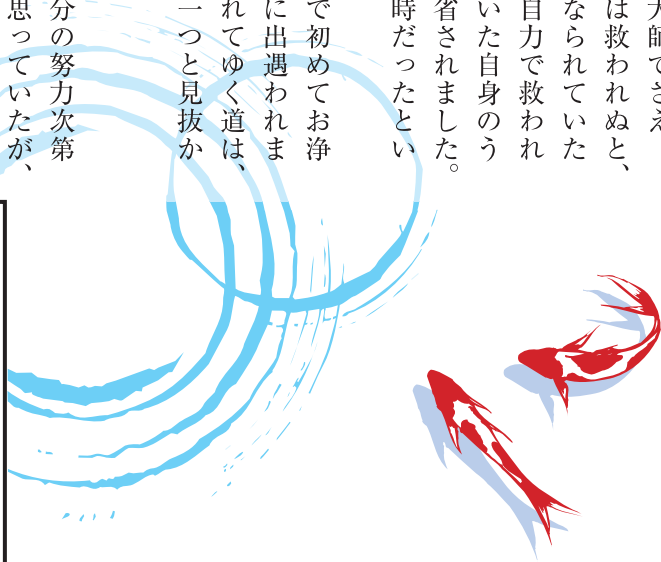
山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453



仏事の

Q&A

七高僧シリーズ5

善導大師とは

善導大師(六一三〜六八一年)は中国山東省にお生まれになり幼くして出家をされました。

当時(唐代)の中国では『観無量寿経』(以下、観経とする)が大変尊ばれ、大師も観経を拠りどころとして誰よりも厳しく往生浄土の道を求めておられました。今ひとつ満足できませんでしたが、そのころ観経は優れた徳の高い聖者のための教えであるとされ、念仏も実のない方便の行と解釈されていたのです。やがて大師二十九歳の時、玄忠寺に道綽禪師をたずね観経の深い意味を知ることとなり阿弥陀仏の本願に目覚められました。

大師は自己への徹底した洞察から道綽の時機の自覚をさらに深め、観経の真意は凡夫救済であり、称名念仏を勧めるためのものであると初めて明らかにされたのです。観経には極楽往生のために阿弥陀仏とその浄土を観ずる方法が説かれています。それはそういう観法を通して実践できない自分に目覚ましめるためであり、仏の名を称するより

ほか無しと念仏に帰せしめるための要門(重要な法門)であるとしましたのです。

大師は『観経疏』を著し、それまでの観経の解釈を楷定し、凡夫救済の道を明らかにしました。これが親鸞聖人が正信偈、文類偈に「善導独明仏正意」「善導大師お独りが観経のお釈迦様のお正意を明らかにされました」と讃えられたお心であります。

『観経疏』の中では、人間が賜る信心を二種類の心に分けて説かれています。一つは自身を救われたい罪悪生死の凡夫と深く信ずること(機

の深信)。もう一つは阿弥陀仏の本願がこのようなものを必ず往生させてくださることを深く信ずること(法の深信)です。また「二河白道の譬喩」

でもって仏道を歩む人間の在りようが説かれています。大師の教えはやがて日本において源空(法然)上人が浄土の教えに帰入する契機となり、私たちが普段親しんでいる廻向文「願以此功德、平等施一切、同發菩提心、往生安樂國」はこの『観経疏』よりいただいている一節です。

教学院第三部会



お墓 寺標 墓地移転 霊園開発造成

高田本山御用達 石匠位認定店 全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式会社 **ストーンズ 石仙**

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前
☎0593-31-4114
サイコーコイソ

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
(〒600-8503) 電話 (075)351-1234(代)

フリーダイヤル ☎ 0120-075-720
フリーダイヤルFAX 0120-075-490

三谷の草庵



宗祖親鸞聖人が五十三歳の時、下野の国(栃木県)芳賀郡柳島という所で夜をむかえました。あたりには民家もなく、水田近くの平石で夜を明かした聖人は、明け方に現れた明星天子の夢告に従って、柳の枝を水田に刺し、菩提樹の実を平石の南に植えて、般若三昧経を称えられました。

朝になると柳と菩提樹は、一夜にして六メートル以上になり枝葉を茂らせ、水田は盛り上がりて頑丈な地盤になりました。これよりこの地を「高田」と呼ぶようになりました。真岡の城主大内国時は、子供がいないため、二人の弟に国司と家督を譲り、自身は高田に近い宮村に住ん

でいました。この話を聞いた国時は親鸞聖人に深く帰依して、一族をあげて高田に寺院を建てることに協力しました。その後、自身も剃髪して聖人の弟子となり、「高田の入道」と名乗られました。

聖人が住んでおられた稲田から高田は遠いので、自分が住んでいる宮村に草庵を建てて、工事が終わるまでの仮の住まいとして聖人をお迎えしました。これが「三谷の草庵」です。

現在の草庵は江戸時代後期に再建された物で、国の史跡に指定されています。

このたび、国と栃木県、二宮町のご協力で保存修理が行われ、四月二日に落成慶讃法会が行われました。

本寺専修寺から、三谷草庵までは約二キロ。これからの季節、聖人が日々通われた道のりを、のんびりと散策してみたいかがでしょう。



歴史まるごと体験塾

七月二十四日～二十六日

小学五、六年生を対象に、津市教育委員会文化課、一身田商工振興会と協力して、本山山内及び寺内町を会場に行う、二泊三日の体験学習です。

期間中は、テレビやテレビゲームの無い非日常的生活の中で、本山内にある食堂に宿泊し、江戸時代をイメージした食事が中心で、和菓子やコンニャクを実際に作って食べたり、地元伝統芸能や竹とんぼ、独楽回し、おはじき等の「むかしあそび」等々さまざまな体験が出来ます。



参加費用は、九千円で、七月七日までに申し込んでください。

参加の申し込み、お問い合わせは津市教育委員会文化課まで。

TEL 059-239-3250

清掃奉仕ありがとうございました

汗を流して清掃奉仕

- 二月 信最寺 万性寺 正覚寺 栄信寺 三重刑務所
- 三月 興正寺 法泉寺 大蓮寺 西唱寺 顕正寺
- 四月 放光寺 迎接寺 仙養寺 浄福寺 西光寺
- 五月 誓覚寺 照栄寺 信福寺 正行寺 法林寺
- 真永寺 養元寺 三重長寿社会大学

お詫び

前号の清掃奉仕報告の際に、「十一月 蓮生寺」の報告漏れがございました。お詫びして訂正致します。(敬称略)

白川晴顕著 浄土真宗は 目覚めの宗教

浄土真宗は目覚めの宗教、阿弥陀さまの見方と大きな温もり、親鸞聖人と常識を超えた教え、御正忌報恩講に寄せた愚かになって卒業等二十数篇の法話 定価1200円税込

無名会同人編 仏と人 40

四天王寺の海 源義春/お仏飯を歌う 南部松雄/人生最終コーナー 太田信隆/何を担ぐのか 森正隆/救いということ(その二)とくに現生正定聚をめぐって 梯實圓/尋常に非ず、臨終に非ず 高田慈昭/世の中安穩なれ 足利孝之 定価410円税込

稲城選患著

他力の信心は awakeか

定価500円税込

稲城選患著

静的宗教と 動的宗教

定価500円税込

梯 實圓著

白道をゆく

善導大師の生涯と信仰 定価2520円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
電話 0755-33711-6665
FAX 0755-33711-9033
振替 015020044993361

これからの本山諸法会

◆ 歓喜会

八月十四日～十六日

お盆の期間に勤まる法会です。朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まります。

◆ 讃仏会

九月二十日～二十六日

彼岸に勤まる法会です。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がごさいいます。



これからの本山諸行事

◆ 第八十回 仏教文化講座

八月二日～五日午前九時より

開講 (但し初日は九時半より開講式)

高田派第二十二世堯猷上人が大正十五年に開設された高田派最大規模の数学行事です。

法嗣殿のご親教をはじめ、各方面から様々な講師をお招きして五日間にわたる講義が続きます。

聴講無料。

一日

御親講 法嗣殿

二日

諸行廢捨思想の展開

— 日本浄土教の課題 —

龍谷大学名誉教授

浅井成海先生

三日

下野高田専修寺と東国門徒

日本女子大学文学部教授

永村眞先生

四日

日本の夢見文化

— ご利益信心と

お陰さまの心 —

立教大学コミュニティ福祉

学部助教授 河東 仁先生

五日

大悲の願船

真宗高田派輔講 高田短期

大学教授 栗原廣海先生

◆ 第四十二回高田派婦人連合大会

八月二十二日

第二十二世堯猷上人のお裏

方実明院様御正當お連夜の日(八

月二十一日)にそのお徳を偲

びつつお念仏のご縁を広めよ

うと始まりました。

宗祖親鸞聖人と同じ、かぞ

えで九十歳になられた女性の

方(大正六年生まれ)を祖師

寿として表彰します。

今年八月二十二日に津市

総合文化センターで開催され

ます。

◆ 現代と仏法を考える集い

八月三十日(午後一時開会)

教学院が開催する、広く現

代と仏法について考える集い

です。

今年、「和田企画」代表

としてカウンセリングを実践

されている和田真雄氏を特別

講師にむかえ、「はす—人間つ

てなあに?」をキーワードに

して討論会形式で行われます。

多くの参加者をお待ちして

います。聴講無料。

◆ 法話発表会

九月八日(十時より)

初めて法話を経験する人から、

お説教師さんとして長く活動

されてきた大ベテランの人まで、

十五分という短い時間の中、同じ会場で法話をします。

僧侶にとって多くの聴聞者

の前で法話をする貴重な機会

であるとともに、何名もの様々

な方がされる法話を一度に聴

聞できる機会としてもご参加

お待ちしております。

聴講無料。



編集後記

全くの私事なんです、苦勞して減らした体重が、また増えはじめました。私の姿を率直に表現されて

いても、昨年の「病氣じゃないの。痩せたねえ」と言われるのと、「最近また太ってきたんじゃない」とでは、受け止める私の気分は全然違います。正直に言ってくださっている意見にさえ、素直にうなずくことが出来ない自分。改めて私の煩惱を知ることが出来ました

寺院名

印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県津市河芸町上野2100

(059)245-3111(代)

F A X (059)245-1177